

図書館だより

コロナ禍と読書

図書館長 村田 和穂



西暦2020年（令和2年）、果たしてこの年は「新型コロナウイルス」という言葉と、このウィルスがもたらしたものによって今を生きる人々に長く記憶され、そして歴史に大きく記録されるのでしょうか？

世界規模の感染は終息を迎えたわけではなく、まだまだ予断を許さない状況なので結論めいたことは控えます。ただ、有明高専も「コロナ」騒動の余波をともに受け、3月の卒業式は中止、4月からの新学期は当面の間の休校措置を余儀なくされ、5月11日から遠隔授業の開始、6月8日からの分散登校を経て、7月13日からようやく一斉登校の運びとなりました。この一連の出来事だけは心に留めておきたいものです。

昨年度の授業がほぼ終了した2月上旬から一斉登校が始まる7月上旬までの約5ヶ月間、私は必要最低限の仕事を除き、もっぱら本を読んでいました。このような状況だからこそ、腰を据えて、じっくりと本を読みたいと思ったのです。外からの情報は敢えて遮断して自分自身と向き合うと、私の場合、どうしても本を読むことになるようです。この間、実にたくさんの本を読みました。研究面では調べる必要のあった18世紀の作家フィールディングの『トム・ジョーンズ (Tom Jones)』という小説を丁寧に読み始めたのが2月上旬でした。この作品は一般にはあまり知られていませんが、夏目漱石も愛読したイギリス文学の傑作です。(注) 私はこの原書を約20年前に一度精読しているのですが、英語が非常に難しく、辞書と首っ引きで読み通すのに2年かかりました。今回は2度目なので、当初は1年以内での読了を目標にしていたのですが、集中できたのか半年足らずで読み終わりました。『トム・ジョーンズ』は、私の使用したテキストで約900頁、総語数では約35万語という大長編小説なのですが、内容は「好青年トムの恋と冒険を描く」（『広辞苑』）痛快無比な喜劇なので、コロナどこ吹く風といった感じで、心踊る楽しい読書になりました。私にとって2020年は、コロナ禍のおかげで『トム・ジョーンズ』を再読できた年、としても記憶されることでしょう。

とは言うものの、「楽しい読書」も研究の一環なので、最後はさすがに疲労やストレスも溜まってきました。そのような時期に対面授業が再開されたのはどんなに有り難かったことか！教室でエネルギーに溢れた若い学生たちに直接（だけどマスク越しに）語りかける機会に恵まれ、改めて教員という職業に感謝しました。1年生の授業では、ルイ・アームストロングが唄う「この素晴らしき世界」を歌詞とともに聴きました。これまで数え切れないくらい聴いてきた歌ですが、今年ほど味わい深かったことはありません。最後に、現在の私の心境を表している歌詞の一部を紹介しましょう：

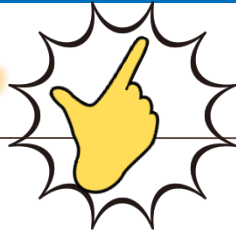
I see trees of green, and red roses too,
I see them bloom for me and you,
And I think to myself, "What a wonderful world!"

（拙訳： 私の目に木々の緑と、赤い薔薇が映る
薔薇は私とあなたのために花開く
私は心の中でしみじみと思う、「なんて素晴らしい世界なんだ」と）

（注） 作家で評論家でもあった丸谷才一は、『坊ちゃん』は『トム・ジョーンズ』の影響下に書かれたと見ていて、『三四郎』に出てくる「ストレイシープ（迷える羊）」という印象的な言葉は「聖書」ではなく、この作品からの引用ではないかと指摘している（『闊歩する漱石』より）。



私のイチオシ



環境・エネルギー工学系
エネルギーコース 南部 幸久先生

『のぼうの城』（和田 竜 作）



紹介する書籍は、2012年11月に公開された同名の邦画の原作です。今年は2020年なので映画が公開されたのはもう8年前になりますが、当時は、主役の成田長親（なりたながちか）に野村萬斎さん、ヒロインの甲斐姫に榮倉奈々さんなど、大物芸能人が多数出演ということもあり、話題になった作品です。

おおよその話としては、豊臣秀吉が天下統一に向けて北条氏の本丸：小田原城を攻める際に、北条氏の支城の一つである忍城（おしじょう）に、石田三成が2万超の軍勢で攻めるのですが、成田長親を総大将とする3千程度の軍勢（農民を含む）は忍城に籠城してそれを凌ぎ、北条方で最後まで落城しなかったのは忍城だけだったという物語です。ただ、この総大将の成田長親という人物は、日頃、農民や子どもたちからも「のぼう様（方言で「でくのぼう」に近い意味だそうです）」と呼ばれていた人物で、物語を読む限り（映画でもそうでしたが）一般的にリーダーに求められる資質は全く持ち合わせていない人物です。しかし、彼の周りの全ての人たちは、全力で「のぼう様のためなら…」と積極的に難局に身を投じていきます。

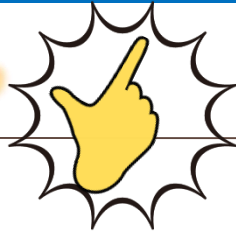
さて、世の中で求められるリーダーは、今も昔も、カリスマ性があって、文武共に能力が高く、スーパーマンのような人材…ではないでしょうか？今の世の中でも、あらゆる業界・分野のリーダーは、そのような人が殆どだと思います。この物語を読み終わって、考察というほど大袈裟なものではないのですが、もし「のぼう様」が優秀なリーダーだったら…と考えみましたが、何故か、もしそうであったら忍城はアツという間に落城していたように思われてなりません。機会あれば、皆さんもこの物語を読んでみてください。リーダーの概念と、本質的な意味で「人を動かす」とはどういうことなのかを考えさせられ、教えてくれると思います。

皆さんも高専を卒業すると（或いは進学先を卒業・修了すると）何らかの仕事に就き、時間経過とともに、本人の希望とは別に、様々な規模でのリーダーを務めることになります。そして、「自分で務まるだろうか？」とか「私では無理！」と思う場面に遭遇することが必ずあると思います。そんな時に、何らかのヒントを与え、背中を押してくれる物語だと思います。

歴史小説ということで堅いイメージがあるかもしれませんが、テンポよく話が進む物語なので、また、高専の学生に居そうな「濃いキャラクター」が多数出てきますので、あっという間に上下巻、読み終わると思います。なお、活字が苦手な人は、映画（ビデオ）を観てから、読んでみるのも良いかもしれません。この物語を通して、「人を動かす」や「人を巻き込む」には何が必要かを、是非、それぞれで考えてみてください。



私のイチオシ



一般教育科・数学

田端 亮先生



『天地明察』（沖方 丁 作）

この物語は、江戸時代のある実在人物を基に描かれた歴史小説です。

江戸時代は、武士による政治が続く時代であり、西洋学問が本格的に入ってくる前の時代でもあります。今では当たり前のように、学問が数学、物理、天文学・・・等の分野に分かれています。この時代にはそのどれにも精通する偉人がたくさんいます。

この物語の主人公である渋川春海もまた、その1人といってもよいでしょう。碁打ちの名家に生まれ育ったにも関わらず、老中に見込まれて、北極出地（北極星の観測による測量）事業に抜擢されます。そして、その経験を経て、日本独自の暦である「貞享暦」を完成させる、そんな半生が描かれています。

しかし、この小説の魅力は、その偉業よりも、春海の人柄と心情描写ではないでしょうか。ひょうひょうとしていてマイペース、器用なのに不器用、親しみやすさが溢れる一方で、今の環境に満足できず、算術を志す好奇心と情熱があります。

ここでの算術とは数学のことです。西洋数学が導入される以前の日本式の数学は「和算」と呼ばれ、例えば久留米藩主となった有馬頼懂は和算家としても有名です。

当時、算額奉納（数学の問題を載せて神社に奉納する）という文化がありました。春海は、算額を見に訪れた神社で「一瞥即解」の解答を残す、1人の天才算術家の存在を知り、衝撃を受けます。

「何としてでも訪ねよう」

心を動かされるように、顔も知らないその天才に挑むべく、自分も渾身の問題を作り、その算額を奉納します。しかし、設問そのものに不備があったことに気づかされ、その挑戦が失敗に終わるとともに、大きな絶望を味わってしまいます。

ようやく立ち直った後も、春海の挫折と苦悩は繰り返されます。それでも、仲間を支えられ、導かれるように苦難を乗り越えていきます。そして、全ての経験を自分らしさに変えていくのです。

何度も何度も揺さぶられる春海の心に、きっと自分の一部を重ねずにはられないでしょう。それほどまでに、歴史上の偉人、渋川春海に命が吹き込まれています。読み終わる頃には、主人公が胸に刻んだたくさんの思想を、皆さんも手にしていると思います。



私のイチオシ

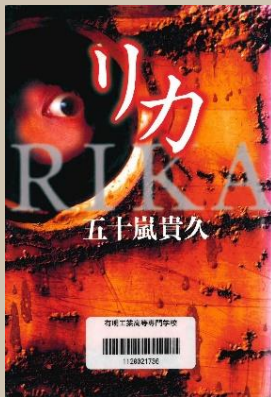


図書館スタッフ

新里 浩子

『リカ』（五十嵐 貴久 作）

『牛への道』（宮沢 章夫 作）



リカ。本田に云わせると「リカの声はお世辞抜きで美しかった」。「わずかに低いトーン」「語尾が震えているような特徴のあるイントネーション」「少し鼻にかかった感じの濡れたような声質」。

本田とリカとは、メールのやり取りを経て、こうして初めて電話を交わします。そして切り際に少し沈黙したリカは「本田さんから切ってください。リカからは切れないです」と言うのです。本田は「じゃあ、切るね。いい？」と言い、でもリカは「ちょっと待って、なんだかもったいない」と言う。「わがまま言わないで」と言う本田にようやくリカは小さな声で「はい」と答える。通話を終えた本田はこう思います。「とにかく、いい女だ」。

メールのやり取りは続き、ふたりの気持ちは高まっていきます。そんなある日、朝から会議に追い立てられながら仕事をしていた本田の携帯電話に12件もの伝言が入っていました。

「リカです。どうして出てくれないの？どこにいるの？」「リカだけど、ねえ、どうしたの。早く出てよ」「リカですけど」「本田さん、何してるの。ねえ、何してるの」「誰といるのよ、まさか奥さんじゃないでしょうね」「お願いします、電話に出てください」「いいかげんにして。からかうのはやめて、さっさと出なさいよ」「どういうことかなあ、早く、早く」「声が聞きたいだけなんです」「リカのこと、捨てる気なの？」最後の伝言には泣き声だけが入っていました。

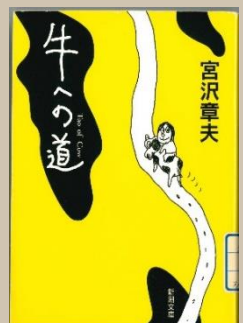
いかがでしょうか。リカはこんな女性です。みなさんならどうしますか。ちなみに、本田にはこれからえらく恐ろしい運命が待っています。とにもかくにも、めちゃくちゃ怖いです。続きが気になる方は、ぜひ、図書館でお借りあそばせ！

さて、リカだけで終わると後味が悪いので、もう1冊。

みなさん、自動販売機で缶コーヒーを買おうとしてボタンを押したところスポーツドリンクが出てきたらどうします？この著者は、気を取り直して別の缶コーヒーのボタンを押すことにしたそうで、そしたらまたスポーツドリンクが出てきてしまった。そこで著者は考えます。「缶コーヒー以外のボタンを押せばスポーツドリンクが出てくるんじゃないか」そう思ってスポーツドリンクのボタンを押したところ、またしてもスポーツドリンクが出てきたのです。著者は茫然としながらもこう思います「スポーツドリンクのボタンを押せばスポーツドリンクが出てくるのは当然の話」。

こんな著者が「バレリーナの足」について考えるとこうです。バレエの公演を見に行った著者は、ラスト、登場人物らの大半が死んでゆくなかにただ一人残された主人公が悲嘆にくれるのを感じます。しかし嘆き悲しむ主人公が次の瞬間、足をすーっと高く上げたのを見て著者は思います。

「悲しいときにまで、足を高々と上げることはないじゃないか。嬉しくても、悲しくても足を上げ、何かことがあるたびに、足を上げる。どうなっているのだ、あのバレリーナの足ってやつは」。



「第1回リクエスト図書募集」を開催しました。

例年、書店に出向き 図書館に置きたい本を学生自身に選んでもらうイベント「ブックハンティング」を開催していましたが、本年度はコロナ禍により実施は難しいと判断しました。

そこで、代替イベントとして企画したものが「第1回リクエスト図書募集」です。

「リクエスト図書募集」では、1、2年生の図書委員を中心に図書館に置きたい本をリクエストしてもらいました。

その中より購入した図書を、選んだ本人にご紹介いただきます。

リクエストに応募してくれた学生のみなさん、ありがとうございました！



==リクエスト図書募集で購入した本は、図書館特設コーナーに展示しています==

この本は、東大生が実践していた勉強法を、暗記、演習、授業、定期テスト、大学受験からなる5つの観点で紹介した本です。

暗記やテスト勉強などの仕方が分からないという方にオススメです。目次で気になったものから読めるのでとても読みやすいと思います。私は暗記が苦手なのですが、3回の復習を習慣化することやアウトプットが大切だということなど、今まで実践したことのない方法も載っていてとても参考になりました。授業中の工夫の仕方について知りたい、演習する工夫について知りたい、自分に合う勉強法が見つからない、といった方は是非手にとって見てください！！

1年3組
猿渡 優衣さん



1年5組
古賀 万尋さん

近所に住む「むらさきのスカートの女」。その女を皆が知っているが、本当の彼女のことを誰も知らない。主人公「わたし」は長いこと、そんなむらさきのスカートの女と友達になりたいと思っていた。やがて二人は「わたし」の思惑で、同じ職場で働き始める。そして、女の日常が変わり始める……。この本は、むらさきのスカートの女とは正反対とも言える主人公「わたし」の目線で描かれている。女の日常が変化していく様子がリアルに描かれ、読み手を引き込む。そして最後に明かされる「わたし」の正体。結局、女は何者だったのか？なぜ主人公は女にそこまで執着するのか？表紙の意味は何か？読み手によって捉え方が変わる考察するのが楽しい一冊だ。この不気味さに、何度も読み返したくなる、中毒性のある本。

1982年生まれの韓国の女性で最も多い名前はジョンとされ、主人公もどこにでもいそうな女性だ。ジョンは誕生から学生時代、就職、結婚、出産に至るまで様々な女性差別に苦しみながらも必死に生きてきた。しかし、ある日、通りすがりの男性から侮辱されたことで精神に異変をきたし、精神科病院に通い始める。

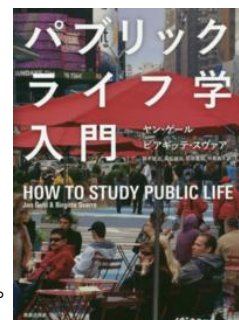
この本は、韓国で社会現象とも言える広がりを見せるフェミニズム小説である。キム・ジョンの生まれた1982年からその半生を振り返りながら、彼女が幼少期から大人になるまでに経験してきた様々な理不尽や不幸等、女性であるがゆえの困難が克明に書き出されており、自分と重ね合わせたからこそ、多くの女性の共感を生んだ。現在でも差別や偏見で犯罪が起きている。現代の社会について考えさせられる本だ。男女関係なく読んでおきたい作品である。

1年5組
坂本 菜々子さん



現代の我々は、スマホに意識を奪われ、「街を観察する」ことをしなくなったと思う。しかし、顔を上げて、街や人の様子を観察すると、面白い発見をすることがある。

例えば、速く歩く人の共通点を見つけることが出来るかもしれない。また、カップルがケンカしやすい場所を探すことも出来るだろう。そのような、「人間観察」とも言える研究に一生を捧げたのが、著者であるヤン・ゲール氏である。この本は、人間の様々な隠れた特性を考えるヒントを教えてくれる。もし、あなたが、この本を読んで街に出たら、人間の特性を深く学ぶことが出来るだろう。そして、それを、学校や仕事に活かすことが出来れば、あなたの人間関係に革命が起こるかもしれない。



4年 建築コース
沖 哲治さん





この本は、多聞という犬が5年をかけて東北から九州まで旅をし、その旅に関わった人間を描いた連作短編集となっています。東北で起こった大震災をきっかけに東北から九州に移り住んだある家族に再会するために多聞は旅をします。九州に移り住んだ光は5歳の時に大震災を体験し、ショックで感情を閉ざしてしまっていました。しかし多聞と出会い少しずつ笑顔を取り戻す感動の作品になっています。短編集になっているので、厚い本が苦手な私でも楽に読みました。多聞の動作などに注意しながら読むとさらにこの本を楽しめると思います。是非、読んでみてください。

2年5組 竹田 誉也さん



※漫画作品「Dr.stone」のこと。

本作は漫画「Dr.stone」のスピノフ、ノベライズ版。



1年5組 川久保天満さん

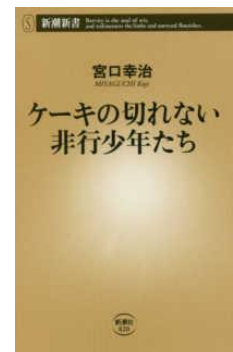
この本はDr.stone※の物語のきっかけとなった、「石化現象による文明崩壊」よりずっと前の話です。文明崩壊する前の話なのでテレビがあり、その中には原作漫画のキャラクター「ゲン」や「司(つかさ)」が対決するシーンもあり、とてもワクワクするものとなっています。現実と照らし合わせ、「昔からどれだけ技術が進歩したのか」なんていうことを考えながら読むのもいいかもしれません。ちなみに原作漫画では文明崩壊後の世界を一から主人公の千空(せんくう)を初めとし、作り上げていく話となっています。原作漫画を読んだことがない人でも楽しめる小説ですが、僕は原作漫画の内容を知った上で読むことでより、楽しめると思うので原作漫画も読んでもらえたら嬉しいです！

蒲生稔（がもうみのる）は東京の繁華街で連続猟奇的殺人をおこした。最初の被害者は喉を絞め殺されていた。彼はその時初めて人を殺した、それと同時に初めて本物の快楽を、愛を経験した。人を愛すると、世界は違って見える、稔は今までそんな言葉は本当だとは思わなかったが今は違った、彼は男は全て、女を殺し貪るために生まれてきたと考えた。この本は蒲生稔、蒲生雅子、元刑事の樋口の3人の視点で書かれており視点により同じ出来事でも考え方やとらえ方感じ方がまったく違うものになります。なぜ稔は人を殺すのか、なぜ被害者たちは狙われたのか。最後の最後まで緊張と恐怖が走ります、ぜひ読んでみてください。



2年1組 末次 太暉さん

この本は、非行少年たちが事件を起こした理由を、「非行少年だけの問題」と捉えずに「貧困や環境の劣悪さで教育が行われていない国や社会の問題」と捉えている本。教育機関が充実している日本で教育を受ける中高生に読んでもらいたい1冊。教育に対する見方も未成年の犯罪に対する見方も変わるのではないかと思います。



1年1組 佐藤 利哉さん

マンションの屋上庭園の奥にある「縁切り神社」。そこを訪れる<生きづらさ>を抱えた人たちと、「わたし」の物語。

この本は、全5話で構成されており、それぞれの話でそれぞれの登場人物が抱える悩みなどについて形代に「縁を切りたいもの」を記し、お払い箱に入れ縁切りをします。

人にはそれぞれの家族構成や生き方があり、自分の普通は他人の普通ではない事など沢山のことを考えることができたと思う。280ページ程ありますが文章が分かりやすくとても読みやすかったです。是非、読んでみてください。

2年2組 宮崎 翔さん



1年5組 矢野結実子さん

主人公の良井良介は、初めての就職先が計画倒産し、憧れの映像制作への夢を一度は断念した。しかし、ひょんなことから「人手不足だから手伝って欲しい」というバイト先の同僚に連れられ、映像制作への現場に飛び込んだ。慣れない業界用語が飛び交う現場に戸惑う日々だったが、仲間たちが作品に傾ける情熱に焦がれるような思いを募らせていく。走るしか能のない新米、突っ走る！行き先は、たぶん未来。「有川浩」改め「有川ひろ」のお仕事&ラブコメの待望の最新小説！





2年3組 志岐 快致さん

<ローランドに学ぶ生き方>

私がローランドという男を知ったのは約半年前、どこかのTVか動画か、そういったメディアから知ったのがきっかけだった気がする、今思えば私はその時既に、ローランドに心を掴まれていたのだろう。

『世の中には二種類の男しかいない。俺か、俺以外か』を筆頭に数々の名言を残しているローランド、一見ジョークのようにクスッとくる言葉もあるが、その実その言葉には元気を貰える前向きな生き方や人生哲学に沿った「生き方」が込められている。初めは『コイツ、面白いやつだな』と思って興味を持った人も、彼の事を知れば知るほど好きになって、少し経てば立派なファンになってしまうはずだ。実際に私も『自信を持つては言わない。自信のあるフリをしてみな!』という彼の言葉に影響を受けて、日々自分に自信を持つてるように、仕草や態度から変えていこうと衝撃を受けた。

世の中の男を自分とそれ以外に分ける程の自信と、それに伴う努力や結果を持つ男の一冊、ぜひ手に取って欲しいものだ。



1年2組 岩村 愛菜さん

主人公の青木はある事件以来、人の頭の上に数字が見えるようになります。

それはルックス、学力、コミュニケーション力などによって決まる点数で、人間の価値を示していました。青木は自分のノートにその点数と内訳を書き留めていました。ある日、青木がなくなったそのノートを春日唯が見つけてしまいます。青木は、空気が読めない、容姿も悪いなど散々な評価により42しかポイントがない彼女が、クラス1のポイント78を保持する曾山に告白したいという話を聞き、圧倒的格差を前に、無謀だと諭します。しかし、青木自身もポイント74の成瀬に恋をしていました。お互いに自分と釣り合っていない人を好きになった二人は、協力して自分たちのポイントを上げて告白する計画を立ていきます。

主人公の青木は、最初は自分のポイントを意識しすぎて、本当の自分を出せていなかったけど、いろんな人たちと関わっていくうちに本当の自分が出せるようになっていったので良かったです。人は正しい答えを知りたくなることもあるけど、この本の主人公は、答えを知っているからこそ苦しかったり、辛かったりしてどっちも大変だと思いました。今の社会を生きていくことの大変さがリアルに表現されていて、引き込まれる作品なのでぜひ読んでみてください。

この本の主な内容は、国が実験によって少年少女の自殺の原因について調べるために、10代の子どもたちを監禁し、それぞれに自殺できるスイッチを持たせるというものです。

ここの監視役を任された主人公とその子供たちの物語です。

10代という若い時から国に監禁されているので、それだけでも精神への苦痛は十分与えられていると思うのに、それでもまだやり残したことがある青年たちが諦めずに7年以上も牢獄の中で生き続けていて、とてもすごいなと思った。自分がもし、その状況に陥っていたとすれば、間違いなくボタンを押してしまうと思います。そして、自殺についても改めて考え直すことができました。

この小説で、私は生きることの苦勞さ、それに耐えることの大切さを学ぶことができました。これからの人生で、何度も大きな壁にぶつかってしまうかもしれませんが、それに耐え、自分のやりたいことを貫いていきたいと思いました。それと同時に、周りにも苦しんでいる人たちや、悩んでいる人たちがいるかもしれません。そんな人たちにも、優しく声をかけられるような、救ってあげられるようなそんな人間に僕もなりたと思いました。



2年4組 酒井 寛生さん



仕事に熱心な父 悟に愛想を尽かし実家に帰る妻子。

しかし、途中で乗っていた電車が事故に遭い子供だけが帰ってくる。家族である子供を実家に預けようとする悟。だが妻の友達を名乗る女性が家を探ねてくる。妻と友達の関係と電車から出てきた物に託された真実とは家族について考えさせられるような物語。

1年4組 岡部 大樹さん





この本は、主人公の晴人とその恋人である美咲のあまりに辛い運命について描かれた本です。物語は優柔不断なキャラクターである晴人の耳を美容室で働く美咲がミスして切ってしまうという衝撃的なシーンから始まります。そんな出会いで最初はごちないものの、2人はお互いを知っていくうちに惹かれあっていきます。しかし2人の恋は上手くはいきません。美咲が人の何倍も早く歳をとる「ファストフォワード症候群」を発病してしまいます。若い2人にとってはあまりに残酷な運命です。この物語はただのラブストーリーではありません。すぐに散ってしまう桜のような恋を描いた作品で涙無しでは読めません。生と死というとても深い部分について考えさせられるいい作品なので読んでみてください。

2年5組
田上 透磨さん

第1回リクエスト図書募集一覧

書籍名	著者名等
1 パブリックライフ学入門	ヤン・ゲール
Rhinoceros+Grasshopper	
2 建築デザイン実践ハンドブック 建築文化シナジー (第3版)	ノイズ・アーキテクツ
3 Rhinocerosで学ぶ建築モデリング入門	山梨 知彦
4 世界の古典と賢者の知恵に学ぶ言葉の力	シン・ヒョン/ユンナル【著】 米津 篤八【訳】
5 Dr. STONE 星の夢、地の歌	稲垣 理一郎/Boichi/森本 市夫【著】
6 Dr. STONE 声はミライへ向けて	稲垣 理一郎/Boichi/森本 市夫【著】
7 自分を動かす習慣—80のヒント集。	張替 一真
8 「育ちがいい人」だけが知っていること—今からでも「育ち」は良くなる！	鎌内 えみ
9 人は話し方が9割—1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ	永松 茂久
10 東大生の勉強法カタログ—8人の東大生が教える100種類の勉強法	学研編集部
11 知識ゼロからのプログラミング学習術—独学で身につけるための9つの学習ステップ	北村 拓也
12 高校生からはじめるプログラミング	吉村 総一郎
13 倒れない計画術—まずは挫折・失敗・サボりを計画せよ！	メンタリストDaigo
14 高校物理基礎をひとつひとつわかりやすく。パワーアップ版	長谷川大和/徳永恵里子
15 荒野	桜庭 一樹
16 記憶屋	織守 きょうや
17 記憶屋〈2〉	織守 きょうや
18 記憶屋〈3〉	織守 きょうや
19 恋に至る病	斜線堂 有紀
20 今夜、世界からこの恋が消えても	一条 岬
21 いちご同盟	三田 誠広
22 ミー・ピフォア・ユー—きみと選んだ明日	モイーズ、ジョジョ
23 握る男	原 宏一
24 恋愛中毒	山本 文緒
25 夏と花火と私の死体	乙一
26 名のないシシヤ	山田 悠介
27 さよなら世界の終わり	佐野 徹夜
28 明けない夜のフラグメンツ—あの日言えなかったさよならを、君に	青海野 灰
29 82年生まれ、キム・ジョン	チョナムジュ【著】 斎藤 真理子【訳】
30 BTSを読む—なぜ世界を夢中にさせるのか	キム ヨンデ【著】/桑畑 優香【訳】
31 八月の終わりは、きっと世界の終わりに似ている。	天沢 夏月
32 星の涙	みのり from 三月のパンタシア
33 阪急電車	有川 浩
34 イマジン？	有川 浩
35 殺戮にいたる病	我孫子 武丸
36 リアル鬼ごっこ	山田 悠介
37 スイッチを押すとき	山田 悠介
38 少年と犬	馳 星周
39 嫌なこと、全部やめても生きられる	プロクターレーヤー
40 桜のような僕の恋人	宇山 佳佑
41 世界の終わりと始まりの不完全な処遇	織守 きょうや
42 わたしの美しい庭	風良 ゆう
43 あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	汐見 夏衛
44 黒猫の小夜曲	知念 実希人

書籍名	著者名
45 レゾナードル	知念 実希人
46 俺か、俺以外か。—ローランドという生き方	ROLAND
47 中世実在職業解説本 十三世紀のハローワーク	グレゴリウス山田
48 暗黒神話	諸星 大二郎
49 孔子暗黒伝	諸星 大二郎
50 フェルマーの最終定理	シン、サイモン
51 100日後に死ぬワニ	きくちゆうき
52 クジラの彼	有川 浩
53 少女七瀬と七人の可愛そうな大人	桜庭 一樹
54 少女には向かない職業	桜庭 一樹
55 アオハル・ポイント	佐野 徹夜
56 ケーキの切れない非行少年たち	宮口 幸治
57 13階段	高野 和明
58 青くて痛くて脆い	住野 よる
59 その日のまに	重松 清
60 ベスト	カミュ
61 その時までサヨナラ	山田 悠介
62 オール	山田 悠介
63 僕はロボットごしの君に恋をする	山田 悠介
64 永遠の0	百田 尚樹
65 現代語訳 論語と算盤	洪沢 栄一【著】 守屋 淳【訳】
66 むらさきのスカートの女	今村 夏子
67 海の底	有川 浩
68 旅猫リポート	有川 浩
69 シアター！	有川 浩
70 シアター！〈2〉	有川 浩
71 別冊 図書館戦争〈2〉	有川 浩
72 レインツリーの国	有川 浩
73 キケン	有川 浩
74 フリーター、家を買う。	有川 浩
75 悪の教典〈上〉	貴志 祐介
76 秘密	東野 圭吾
77 砂の女	安部 公房
78 夢十夜	夏目 漱石
79 むかし僕が死んだ家	東野 圭吾
80 黒い雨	井伏 鱒二
81 キリン	山田 悠介
82 ニホンブンレツ	山田 悠介
83 か「く」「し」「ご」「と」「	住野 よる
84 ムゲンのい〈上〉	知念 実希人
85 ムゲンのい〈下〉	知念 実希人
86 生きてさえいれば	小坂 流加
87 余命10年	小坂 流加



特別寄稿

楽農ファームたけした

(本校27期機械工学科卒業生)

代表 武下 浩紹さん



著者近影

『最強の自社ブランド農業経営 —イチゴで年商8000万円—』

～有明高専在校生の皆さんへのメッセージ～

【できない理由こそやる理由、そこにあなたの存在価値がある】

在校生の皆さん、機械工学科27期卒業の武下浩紹といたします。

現在、福岡県大川市で苺の生産／販売を行う「楽農ファームたけした」を経営しています。

2020年3月16日にこれまでの挑戦と挫折、成長の実例を一冊の本に纏めました。

ぜひ後輩の皆さんの人間力の向上に役立ててほしいという思いで紹介文を書きます。

私が属する業界は農業。そこでのオンライン化はまだまだ少なく、特に配送の難しい苺、しかも大玉の「あまおう」という品種は無理だと大反対の中で平成18年からオンライン事業に取り組みました。

あれから14年、線路の枕木のように困難だらけでしたが、起業時の売上1500万足らずだった事業が2021年には一億円達成を見込んでいます。私はコロナショックで売り上げを落とすどころか、社会構造の変化をチャンスととらえ、いち早く対応して売り上げを伸ばしています。できる、できないはだれが決めるのか、それは自分です。周りのやったことがない人たちは、達成経験がないのだから、当然できない思考です。だから出来ないという意見になります。ただそれは心配していつてくれている思いやり、根幹の心は受け取り感謝します。人はみな臆病です。これは人類が生き延びる以上、必要な思考であり、命を守るためには臆病は当たり前です。だから見たことないもの、経験したことないことは無理だというのが大多数です。

ここが分岐点です。私はできると思ったから起業しました。周囲は気が狂ったとか、頭がおかしいと言いました。身内ほど心配して、絶対にやめろ！と語気を強めました。しかし当時の武下家の現状の延長線上に10年後の未来はよくなる要素が一つも見当たらなかった。今行っていることの延長線上に未来があります。未来は今、この瞬間に作られています。今、私たちが思っていること、行動していることの積み重ねが未来です。過去は終わったこと。過去の失敗に引きずられて今の行動にためらう人がいますが、過去は関係ありません。未来のなりたい姿から逆算して今の行動を決める。人は確かに過去の産物ではあるけれど、今できることと過去の出来事は何も関係ないのです。感情だけの問題です。この感情をいかに行動で凌駕できるか。感情で判断しないことです。私は感情で揺さぶられても、未来の理想像からの逆算で今すべきことを細分化して一日の計画に落とし、実行し続けてきました。うまくいかないことだらけです。しかし一週間で4勝3敗でいけばいいという楽観思考も持っています。人はそんなに強くない。弱くていい。臆病でいいんです。だから愛する人と支えあえる。人はみんな違う。違って当たり前、みんながそれぞれ最善を尽くしている。誰も間違っていないんです。みんなが正しさを押し付けあったら、戦争になる。私は批判という行動の表面を受け取るのではなく、その人の最善の意見と思いやりであると受け取る努力をして、感情で落ち込みがちな時も思考と行為で自分をコントロールしてきました。心で泣いて顔で笑ってきました。そして自分の可能性を信じ続けた。自信は自分を信じる力です。会社に対する自信、商品に対する自信、職業に対する自信、自分に対する自信、この4つの自信をいつもピカピカにして生きています。だから一億円の売り上げと地域のリーダー、業界変革者のポジションがとれました。

特別寄稿

これからも国家貢献の志を拡張しながら、一度の人生、二度ない人生を世界のステージを目指して邁進していきます。思い返せば、在学中も高専祭やクラスマッチ、学生会、サッカー部といったも全力で仲間の力を借りながら走り回っていました。母校、有明高専での自由な環境が今の私の自由な発想を育ててくれました。母校を誇りに思います。在校生の皆さんの自由な発想がいずれ日本社会のメインエンジンとなるリーダーがたくさん排出されることを願って、この本をプレゼントします。できない理由がやる理由です。

やれば出来る。そして人は変われる。ただ簡単には変わりません。小さな成功を積み重ねて自信を育ててください。

今、自信を育てる時です。

皆さんの人生の成功を願っています。あなたもできる。



楽農ファームたけした 代表 武下浩紹



本校名誉教授（元機械工学科教授）
川寄 義則先生

教育のすべては“学生本位”、
“スチューデントファースト”を基本に



著者近影

貴高専1期生として、また教職37年在職者として、いつも母校有明高専を応援しています。学生諸君、教職員の皆様方の日々のご活躍うれしい限りです。

本年度は当初より、日本、世界中が新型コロナウイルス問題で未経験の試練を受けています。貴校も大変な中でご努力のこと、益々応援しています。

そのような中で、貴校機械工学科27期卒、武下浩紹君が、この度、自身が展開しているイチゴ栽培を通じた内容の著書を出版したというホットニュースを受けました。ちなみに、私、在職中、M27期生を3、4、5年生の3年間クラス担任をさせていただきました。よって、武下君の今回のことは人一倍うれしい出来事です。本人より美味しいイチゴ付きの献本を戴き、即座に読了いたしました。すべては毎日の仕事を通しての実践からの内容でした。気づいたこと、それは私が勤めた教職ともすべてが通じるものでした。私でいえば、教育のすべては“学生本位”、“スチューデントファースト”を基本に、毎日将来を見据えた仕事、生活に努めていたかどうか？を改めて考えさせてくれるものでした。

そこで、貴校の学生諸君にも是非読んでいただきたく、ここに寄贈（3冊）させていただきました。実際の経験でははるかに少ない学生諸君かもしれませんが、武下君の考えのエキスを理解いただけ、また今後の社会人への準備のために、必ず役立つものと考えます。是非とも読んでいただきますようお願いください。

読後の感想、質問等があれば、村田先生か図書情報係のスタッフにお伝えください。そうすれば、武下君や私まで連絡してくれることと思います。

おわりに、高専1期生、同時に有明高専のある町、萩尾町住民の私。これからも、わが有明高専の益々の発展を楽しみにしています。頑張ってください。

M1期生、元有明高専教員 川寄義則

図書館統計

■平成31(令和元)利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	22	22	25	23	19	19	25	23	22	21	20	0	241
入館者総数	3,268	4,772	4,594	5,204	1,443	1,018	3,942	5,177	3,390	4,305	2,564	0	39,677
(内夜間)	354	650	527	778	77	0	432	1,001	334	691	238	0	5,082
(内土曜日)	32	77	274	239	31	0	104	143	58	25	136	0	1,119
1日平均	149	217	184	226	76	54	158	225	154	205	128	0	165
貸出冊数・総数	462	284	227	293	222	123	250	196	321	187	222	28	2,815
(内夜間)	77	65	57	75	34	11	40	37	60	62	19	13	550
(内土曜日)	9	12	5	5	0	0	3	10	2	0	11	0	57
1日平均	21	13	9	13	12	6	10	9	15	9	11	0	12

■分類別図書貸出冊数の推移

年 度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学(*1)	産業	芸術	語学	文学	多読	その他(*2)	合計
平成27年度	0	49	39	53	149	1,596	6	44	115	671	2,039	1,078	5,839
平成28年度	0	45	50	46	176	1,353	7	80	222	560	3,752	575	6,866
平成29年度	26	36	20	18	126	932	7	39	26	458	1,705	709	4,186
平成30年度	19	29	32	45	178	871	3	67	60	331	1,163	900	3,698
平成31(令和元)年度	76	156	48	206	296	92	10	114	78	892	126	1,774	3,868

*1 H27年度以降の「工学」は、007情報科学、430-439化学、460-469生物一般の貸出冊数が含まれる

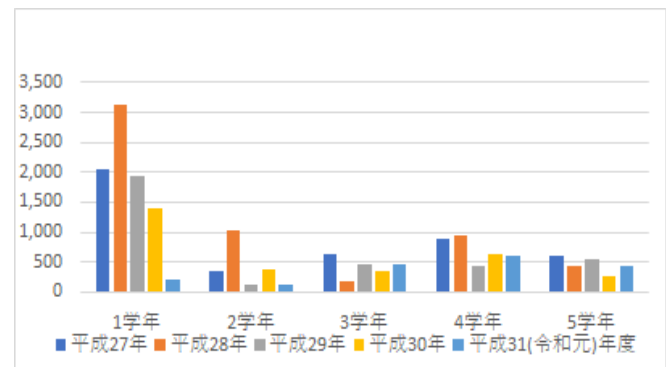
*2 「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す

■利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況				入館者数		貸出冊数				1日当たりの数値		1人当たりの数値	
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間、土曜日)	総数	(内学生のための貸出冊数)	内夜間、土曜日	(内学外利用者)	1日当たり入館者数	1日当たり貸出冊数	学生1人当たり貸出冊数	利用者1人当たり貸出冊数
平成27年度	271	1,346	1,085	250	11	51,233	13,137	5,839	5,293	1,448	546	189.1	21.5	5.4	4.3
平成28年度	260	1,428	1,138	277	13	60,822	9,376	6,866	6,392	1,286	82	233.9	26.4	6	4.8
平成29年度	254	1,340	1,140	188	12	48,316	8,070	4,186	3,865	715	106	190.2	16.5	3.7	3.1
平成30年度	250	1,301	1,105	186	10	41,426	7,450	3,698	3,425	756	7	165.7	14.8	3.1	2.8
平成31(令和元)年度	241	1,648	1,140	215	30	39,677	6,201	2,815	2,361	607	74	165	12	2	1.7

■学年別図書貸出冊数

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	専攻科1年	専攻科2年	合計
平成27年	2,052	341	646	903	599	506	246	5,293
平成28年	3,120	1,021	190	951	441	377	292	6,392
平成29年	1,933	134	472	433	541	180	172	3,865
平成30年	1,389	383	355	627	279	256	137	3,426
平成31(令和元)年度	217	111	477	618	449	227	262	2,361



編集後記

4月より図書情報係に異動して参りました。今回初めてのリクエスト図書の募集では、皆さんの興味のある本を知ることや、その中で気になる本を探すことは楽しい作業でした。コロナウイルス感染防止のため、思い切り皆さんに利用のお誘いをできないのが残念ですが、面白い本が沢山ありますので、ぜひ好みに合う本を探しに来てください。[図書情報係 八頭司]